

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立池上小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・5・6年生では、前年度に目標値を下回っていた内容（漢字や言葉）が改善している。
- ・書かれていることの内容を読み取ったり、聞き取ったりする能力が高い。

(2) 課題

- ・聞き取ったことをもとにして、条件に応じて、求められていることに対して回答することに課題がある。
- ・言葉に関して理解できていないところが部分的に見られるため、言葉の学習に取り組む必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	・漢字を読んだり、へんやつくりを理解したりすることはできた。しかし、「第3学年に配当されている漢字を正しく書くこと」で目標値より10ポイント下回った。 ・文章を書く領域で目標値を約10ポイント下回った。		
第5学年	・話や物語、説明文の内容を聞き取ること、漢字の読み書き、自分の考えを書くことで目標値を上回った。 ・「調べたことをもとに文章を書くこと」や「相手や目的を意識して書くこと」で目標値を5ポイント以上下回る設問があった。	・漢字を正しく書くことの設問では8ポイント下回った。 ・自分の考えを書く叙述問題では、目標値より約6ポイント上回っていた。	
第6学年	・話や物語、説明文の内容を聞き取ること、漢字の読み書き、自分の考えを書くことで目標値を上回った。	・基礎力約8ポイント、活用力で約18ポイント目標値を上回った。	・基礎力で約7ポイント、活用力で約16ポイント目標値を上回った。また、話すこと・聞くことの領域

	- 言葉の学習の問題（敬語）では、全国平均より約2ポイント低い正答率であった。 「目的に応じて文章を書こう」という問題では、全国平均より約6ポイント低い正答率であった。	- 第4学年に配当されている漢字を正しく書けているかの問題では、目標値より約10ポイント低い正答率であった。 - 連体修飾語の理解を問う設問では、全国平均より約11ポイント低い正答率であった。	ではすべての設問で全国の平均を上回った。 - 書くことの領域ではすべての設問で全国の平均を大幅に上回った。 - ローマ字等の言語の力を問う設問では、約6ポイント全国の平均を下回った。
--	---	---	---

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 「第3学年に配当されている漢字を正しく書いている」か問う問題では、目標値より約10ポイント下回った。	① 物語・説明文の内容を読み取る問題はすべて目標値を上回った。特に、「登場人物の様子について、叙述を基に捉えているか」を問う問題では、9割の児童が正解していた。 ② 文章を書く問題では、ほぼ目標値を下回った。特に、「相手や目的を意識して書く」という問題では、正答率が目標値より約6ポイント下回った。	① 記述式の問題の正答率目標値を約6ポイント下回っていた。記述式の問題を主体的に取り組む課題が浮き彫りになっている。書くことに対して、苦手意識を感じている児童が多くいる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 5年生、6年生ともに、漢字の読み書きは、目標値を上回った。 ② 5年生において、文章を書く設問では、約10ポイント下回った設問があった。	① 5年生、6年生ともに、物語・説明文の内容を読み取る問題はすべて目標値を上回った。特に、「説明文の内容を読み取る」問題では、目標値より約10ポイント上回っていた。	① 5年生の記述式の問題の目標値を約9ポイント下回っていた。記述式の問題を主体的に取り組む課題が浮き彫りになっている。

③ 6年生において、「言葉の学習」においての設問では、目標値より約10ポイント下回った。	② 5年生において、「調べたことをもとに書く」問題は目標値を下回った。	② 6年生の目的に合わせて文章を書く際、主体的な態度にやや課題があった。
--	-------------------------------------	--------------------------------------

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<読む> - 授業や家庭音読の時間を確保し、継続的に取り組む。 - 朝のビルドアップタイムに音読・暗唱交流をする。 - 説明文を読んで分かったことや考えたことなどを述べたり、物語を読んで内容や感想を伝え合ったり演じたりする活動を取り入れる。 <書く> - 児童が書くことを楽しみ、書いたものに満足感をもてるように、題材や読み手、用紙を工夫したり、交流会を設定したりする。 - 簡単な段落構成で文章が書けるように、<u>始め・中・終わりで書く指導をする。</u>		- 司書教諭や担任による読み聞かせ、読書の時間を通して、図書に触れる機会を増やす。 - 国語の知識や技能、図書資料をすすんで活用するように、調べて書いたり伝えたりする活動を取り入れる。 - 単元に応じてすすんで読書することにつながるように、教科書で紹介されている図書を廊下に置いて、すぐ手に取れるようにする。 - 詩の音読や暗唱に意欲的に取り組めるよう、様々な詩を扱ったり、練習した詩を聞いてもらう場を設けたりする。 - 意欲的に学習に取り組めるように、<u>ペアやグループ活動、全体での練り上げや対話</u>など形態を変えて学習を行う。
<話す・聞く> <u>身近なことなどから話題を決め、スピーチやペアトークをする場を日常的に設ける。</u> - 話題に沿った質問をしたり感想を伝え合ったりして、<u>ペアで楽しくやり取りする活動</u>を多く取り入れる。		
<言語> - 漢字やカタカナを正しく使えるように、日常的に既習漢字やカタカナを使うことを意識させる。 - 定期的に<u>しりとりやことば集めゲーム</u>を行い、語彙力の定着を図る。		

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<読む> - 授業や家庭で音読の時間を確保し継続的に取り組む。その際、漢字の読み取りができるようにする。 - 段落相互の関係を捉えさせるために、指示語や接続語にも着目させる。 - 説明文では、段落のまとまりを捉えさせるために、<u>段落ごとに小見出し</u>を付けさせる。 <書く>		<u>ペアやグループ活動、全体での話し合いを取り入れる</u>ことで、友達と交流しながら学習できるようにする。 - 漢字ドリルで出てきた進出漢字の熟語を調べる。 - 分からない言葉が出てきたら、

- 感想や説明、報告の文章を書く際は、「初め・中・終わり」の構成を意識して考えを書けるようにする。また、一文を短くし、主語と述語の整合性が合うように指導していく。その際、接続詞を用いて文と文の関係を明確にして書けるようにする。 <u>自分の経験や思いについて積極的に取り組めるようにテーマを工夫する。</u>	辞書を使って調べる活動を行っている。 司書教諭や担任による読み聞かせ、読書時間を積極的に設け、様々な種類の本を選んだり、児童に本を紹介したりして、読書の幅を広げる。
<話す・聞く> - 少人数での話し合いの場を設ける。 <u>スピーチやペアトークをする場を日常的に設ける。</u> - テーマに沿った話し合いの場面では、<u>自分と友達の考えの共通点や相違点を考えながら</u>話し合いを進めるよう、ポイントを示す。 - 発表する時には必要に応じて話型を示し、話すことが苦手な児童がすすんで発表できるようにする。 - 話し手のみならず、聞き手の指導も行う。その際、返事やリアクション時の言葉、タイミングを教えるとともに、話し手が意図的に間をあけられるように指導する。	

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<読む> - 説明文の読み取りでは、文章構成を考えて<u>段落ごとの役割を考えたり、段落ごとに小見出しを付けたり</u>して、書かれている内容や筆者の主張を読み取れるようにする。 - 接続詞に着目し、<u>叙述を根拠に、段落相互の関係や文章全体の構成を捉える。</u> - 情景描写や心情を表す言葉の理解と活用を促進する。		- 朝の時間や図書の時間を活し、<u>学習内容の関連書籍を紹介したり司書教諭を活用したりして、様々な分類の本に触れさせ</u>、読書の幅を広げる。 - 書くときに使える語句や表現を示し、自分の考えを豊かに表現できるようにする。また、詩や俳句指導を年間を通して継続して行い、語彙を豊かにする。 - ペアやグループ活動、<u>全体での話し合いの場</u>を意図的に多く設定し、友達の考えと自分の考えを比較し、共感したり、補足や反論をしたりできるようにする。
<書く> - 漢字の小テストの点数が合格点を超えるまで、継続的な指導を徹底する - 文字数を制限して文章が書けるように、<u>説明文の要約等において、字数を制限して文を書く場を設定</u>する。(教師が文のレイアウトを示して行う) <u>叙述を根拠に、段落相互の関係や文章全体の構成を捉える必要がある。</u>そのために、段落を計画的に読み取り、考えをまとめる経験をさせる。 - 説明文を読む際は、筆者の考え、事例を確実に読み取り、最後に自分の考えをまとめる(要旨)活動を多く取り組ませる。		
<話す・聞く> - 話型を提示し、「はじめに結論、次に理由」などと効果測定の記述形式の問題にも応用できるようなスピーチをする時間を授業内で設定する。 <u>少人数での話し合いの場面を多く設け、スピーチやペアトークをする場を日常的に設ける。</u> - テーマに沿って自分の考えを話す習慣を身に付けさせる。 - 聞いたことを文に表すこと、発言したことを文に表しまとめるこ		

とを適宜取り入れる。 ・正確に内容を聞き取ることができるように、日頃の授業から集中して話の内容聞くことや、内容を要点で書き留める力、情報と情報を関連付けて書き留める力を身に付けさせる。	
＜言語＞ ・<u>辞書を廊下に置き、分からない言葉や漢字をすぐに調べる習慣を身に付けさせる。</u> ・週に一回漢字小テストを実施し、反復して練習に取り組ませ、定着させていく。 ・ローマ字を書いたり読んだり、キーボードのタイピングをしたりする時間を授業内に設定し、反復して取り組ませる。 ・発言、記述の時間を増やし、理解した言語を表現する活動を通して、分かる言葉・使える言葉を増やす。	